

ICCAE



news
No.3 2000.10.1

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成12年10月1日発行 第2巻 2号(年2回発行;通巻3号)

発行/〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~iccae/index-j.html

発展途上国の農学分野における 人づくり協力の望ましいあり方

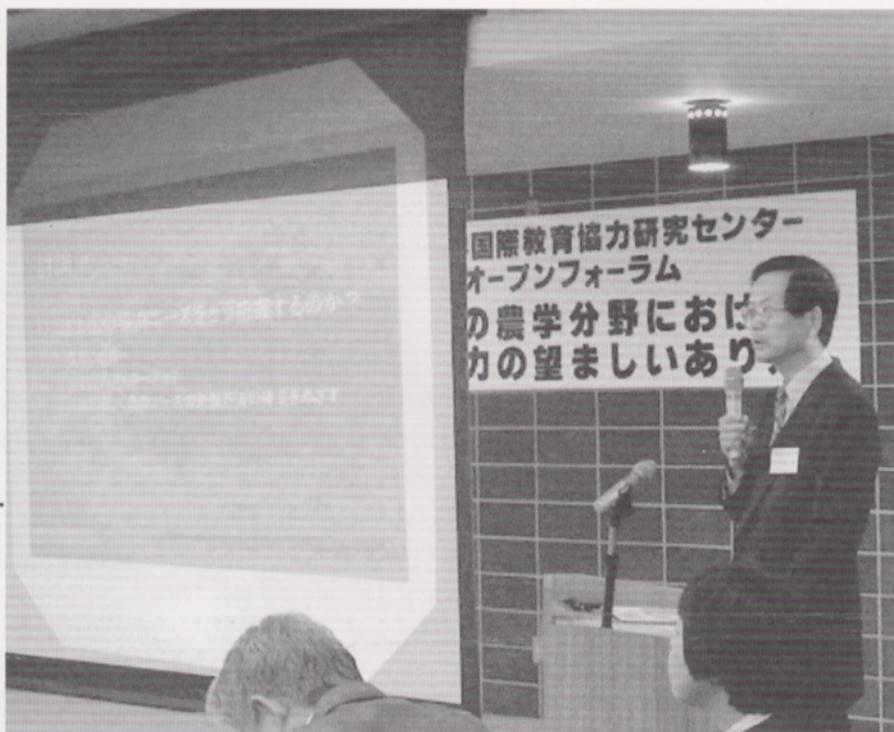
農学国際教育協力研究センター
第1回オープンフォーラムの開催
(2000年3月16日-17日)

プロジェクト開発研究領域 教授 松本 哲 男

農学国際教育協力研究センターは、農学領域の問題を実践的に解決する人づくりに関わる国際教育協力を効果的・効率的に進める方法を見出す目的で、

第1回オープンフォーラム「発展途上国の農学分野における人づくり協力の望ましいあり方」を3月16、17日、豊田講堂第一会議室で開催しました。

農学領域の国際協力で実績のある国内13大学と農水省国際農林水産業研究センター(JIRCAS)、国際協力事業団(JICA)からの招



写真：第1回オープンフォーラムで報告する松本教授

待者を始め、オイスカ、アジア保健研修所などのNGOを含め、学内外から50名以上の参加がありました。

フォーラムは、竹谷センター長の挨拶に始まり、松本教授より当センターを発展途上国が直面している農学問題を解決するための人づくり協力を進めるナショナルセンター、さらにはインターナショナルセンターにしていく、とのビジョンと決意が披露され、各組織に対して協力依頼がなされました。続いて、ナミビア大学農学部長オズモンドD.マンデメレ教授が「ナミビア大学農学部の設立と日本に対する国際協力の期待」と題して、ナミビアにおける農業教育の重要性について特別講演を行ないました。休憩後、大賀圭治東京大学教授、緒方一夫九州大学助教授、藤本彰三東京農業大学教授、狩野良昭JICA森林・自然環境部長、佐藤正仁JIRCAS連絡調整課長が、各組織での途上国における農業領域の取り組みと教訓について報告しました。

翌日は、「途上国の協力ニーズをどう把握するか?」「協力活動の意思をもつ人材をどう活用するのか?」「人づくり協力にかかわる学問をどう築くのか?」の三つの議題に沿って熱心な討論が展開されました。協力をする側だけでなく、される側におけるニーズの把握の重要性、調査する立場でニーズが変わること、誰のニーズか、箱物からソフトへ、海外派遣協力を際し教育、研究、評価の保証、若手研究者とシニアの組み合わせ、大学院生の海外派遣、国際協力の研究、新しい学問とジョブマーケットなどの点でいくつかの具体的提案がなされました。これらの問題の解決

を図っていく上で、当センターが全国の大学の窓口になることが、参加者一同から強く期待されました。センターは、今後とも各組織と連絡を取り合いながら、所期の目的達成のために奮闘することを約束して、フォーラムを終了しました。